

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600704		
法人名	社会福祉法人 長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム今里		
所在地	南松浦郡新上五島町今里郷251-32		
自己評価作成日	令和4年11月14日	評価結果市町村受理日	令和5年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着だが、コロナ禍で行事が出来にくい為、規模を小さくして行っている。コロナが落ち着いてきたら期待してほしい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐世保市に本部を置く社会福祉法人長崎友愛会が運営するホームで、小規模特別養護老人ホーム、住居型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、24時間対応型訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などの福祉施設を運営しており、福祉に造詣が深く、地域からの信頼も厚い。ホームには隣接して小規模多機能ホームがあり、災害時などの緊急時には職員が互いに協力する体制を整えている。地域の小学校から300mと近い距離に位置し、小学生との交流を積極的に行っており、小学生が作った七夕飾りやメッセージDVDのプレゼントを受けて入居者に楽しんでもらうなど、コロナ禍でも関係を継続している。職員は理念である「もっと笑顔で、自分らしさを大切に」を掲げ、入居者が楽しく活いきとホームでの暮らしを継続できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度も「コロナ禍」の為、地域や小学校との行事にも参加できなかったが、例年は地域との交流を心掛け、地域に根差した事業所を目指しております。	理念である「真愛」「もっと笑顔で、自分らしさを大切に」をホーム内に掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。職員は、毎月のフロアミーティングや日々の支援の中で、理念に沿った支援ができているかを検討し、管理者と共に理念を踏まえた支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春の「父母の日の集い」夏の「納涼祭」秋の「敬老会」には地域の方や老人会の方にも参加して頂き交流を深めている。今年度もコロナ禍のため、敬老会のみ規模を小さくし、職員と入居者だけで行った。	ホームより300mの距離に小学校があり、小学生から七夕の飾りやメッセージDVDのプレゼントを受けており、入居者の喜びとなっている。ホームでは5月の「父母の日の集い」、7月の「納涼会」、9月の「敬老会」、10月の「敬老焼き肉会」を企画し、イベントや催しを通して地域住民や子供達のほか、ボランティアや地域おこし隊等と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、地域の方の訪問や行事参加は難しかったため、運営推進会議の中で指摘があり、それについて取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、「コロナ禍」のため、2か月1回、会議を4月、8月を文書で行い、6月、8月を対面会議で行った。今後もメンバーの意見の取り入れと2か月に1回の開催を続けていきたい。	運営推進会議の構成メンバーは、民生委員、郷長、新上五島町役場健康保険課職員、家族代表、ホーム職員で、2か月毎に開催している。コロナ感染の状況に応じて対面または書面会議にて行い、ホームの運営状況の報告や、出席者との意見交換で得られた事項を取り入れホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の健康保険課の方が、運営推進会議に参加されているので情報をとりあえる。地域包括の方から問い合わせがあるので協力出来ることには対応させていただいている。	日頃より新上五島町役場健康保険課や、福祉事務所、地域包括支援センターと連絡を取り合い、入居者の状態やホームの運営状況などについて積極的に伝えながら、より良い支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、会議の中で内部研修を行っている。また、日頃から、職員同士で拘束にあたる？あたらぬ？の話を常に行っている。	ホームでは「身体拘束禁止対応規定」を策定し、職員全体で身体拘束の無いケアに取り組み、身体拘束の弊害等を職員へ周知徹底しケアに努めている。身体拘束適正化委員会や毎月1回のフロアミーティング、日々の支援の中でも身体拘束の無いケアについて話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止委員会だけでなく、何らかの委員会に参加しており、内部研修だけでなく、日頃から職員同士で虐待にあたる？あたらぬ？の話を常に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、1名の方が採用された。職員へは、全体会などで紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護支援専門員、管理者が担当し、納得して頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で御家族との面会が少ないため、電話等でのやりとりがほとんどである。申し送りなどで、情報は共有し、対応するようにしていますが、一部の御家族になってしまっている。	入居者は日々の生活の中で、職員に意見や生活に関する要望を伝えており、職員は傾聴に努め、運営に反映できるよう取り組んでいる。家族の意見や要望は、家族がホームを訪れた時や、電話やメールで連絡する時などに職員が聴き取り、職員間で共有すると共に、必要に応じて担当者会議へ諮り、介護計画書にも反映している。	重要事項説明書について、平成30年4月の指針改正に伴う第三者(外部)評価受審状況を重要事項として家族等に対し説明できるよう取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や面談等を通じて、日頃から職員の意見を聞き、できるだけ対応しようとしている。	職員は毎月1回のフロアミーティングや、日々の支援の中で、管理者に対し入居者支援に関する意見のほか運営に関する提案等を行っており、管理者や代表者は適切に対応している。管理者が窓口となり、職員に対して毎月1回個別面談を行い、職員の思いや提案を聞き入れ業務改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、給料の見直しなどあり又、ホームでの取り組みの努力など理解し評価されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月行われており、外部研修の案内をホームに情報提供して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のつながりがあり、地域から他のツ事業所、施設とのつながりは深い。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時は、ご本人、御家族共に話す時間を取り電話での連絡をいつでもとれるようにし不安なくサービスの利用ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで困ったことや、これからの不安を傾聴し御家族との関係づくりに努めている。ご本人はもちろん、御家族の支援をすることも常々代表が言われている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況と、御家族の状況を判断しその時に必要なサービスを勧めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの中では、一部の方に洗濯物たたみやお茶の葉を袋に入れておくをお願いしているぐらいで、日々の介護に追われ最近では手伝いをしてもらうことが少ない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の状況によっては、外出、受診、外泊などの協力をいただいているが、今年度もコロナ禍のため、面会禁止か窓越しの面会になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住所が近くの方は、散歩やドライブなどつれていくことができるが、遠方の方は時間がなく難しい状況である。	入居者は職員と共にホームの周辺を散歩して馴染みの地域住民と会話を楽しんだり、入居前に暮らしていた自宅や、その方の家族宅の周囲をドライブで眺めたりしている。入居者から墓参りに行きたいとの要望を受け、家族に協力を仰ぎながら墓参りに出かけるなど、入居者が馴染みの人や場所との関係を継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を把握した上でご利用者同士の支え合いができていますので、自然と関わりあいができています。時により、職員が間に入り円滑にいくよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	離島という地域の特性もあり、退所されてからも町であったりすると挨拶や会話をし、関係を継続できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意志が伝えられる方の希望や意向は、日々の会話から把握し、情報を共有するようにしている。失語症の方は、ご家族の方に相談したりしている。	職員の担当制を採用し、担当職員を中心に入居者の状況を詳細に把握している。職員は日頃より入居者の思いや暮らし方の希望、意向を把握するよう努めており、把握した内容をホーム全体で共有し、ホームでその人らしく暮らせるよう支援に努めている。希望や意向の申し出が困難な入居者の場合には、家族にも確認し入居者本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族や以前の担当の方からの聞き取りを行い、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほとんどの方が目が届くので、過ごし方、心身状態、状況が変わってきたのも把握できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、訪問看護の方々へ相談することもある。又、訪問看護は毎週来られるのでアドバイスを頂く機会も多い。日々のケアの中に反映していることもある。	毎月1回のフロアーミーティングや、日々の支援の中で、職員は管理者へ入居者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について提案している。計画作成担当者は、本人、家族、ホーム職員などと話し合い、充実した毎日が過ごせるよう介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録が職員によっては書けるようになってきている。申し送りノートは情報共有に活用できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に合わせられる事は、他からの協力を得ながら対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員、ご家族での支援を行っている。本人が欲しいものを、職員が代行して買い物をしてしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の特性で病院は上五島病院のみだが、皆さま主治医が決まっており、適切な医療支援は行えている。	ホームの連携病院である上五島病院への受診は、職員や家族が同行している。入居前に利用していたかかりつけ医への受診も継続できるよう配慮し、受診には職員や家族が同行している。連携病院の訪問看護師が毎週火曜日にホームを訪問し、入居者の健康管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の日に、聞きたいこと伝えたいことは職員間でその日出勤する職員に伝え、当日、伝えてもらっている。看護師さんも必要に応じ病院との連携をとっていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状況の判断を病院と連携しながら連携室の担当の方と連絡を取り合い、退院後の事まで検討し安心して入院治療が出来るようにしている。早期に退院出来る時は、すぐに対応するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族とは元気な時に話をするよう心掛けている。ホームで出来る事は説明しており、環境や医療の必要性に応じての移動の旨も伝えている。	ホームでは「重度化した場合における対応、及び看取りに係る指針」を策定し、入居の際に入居者と家族に内容を説明し、同意を得た上で支援している。看取り期には全体会議や毎月1回のフロアーミーティングでその方の状態を職員間で共有している。職員は看取りの研修を受けるなどチーム全体で支援できるよう備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師のサポートもあり、訓練は行っていないが、マニュアルを参考にしたりして対応は出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	今年度は、1回6月に立会を行った。12月も立会にて避難訓練を実施する予定です。	入居者が安全に避難できるよう消火訓練や避難方法の検討など、ホーム全体で取り組んでいる。職員全員が救急救命講習を、7月、8月に交代で消防署にて習得しており、ホームでの安心感に繋がっている。	避難訓練を行った際は実施結果を検証した記録を残すと共に訓練状況を写真にも残り、家族等にも説明できるよう取り組むことに期待する。災害に備え、最低3日間の運営が維持できる非常用物資の備蓄の整備を検討し、備蓄一覧として管理することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理事長が、尊厳を大切に敬う気持ちで接する事を言われています。職員同志で気になる言動がある時は、注意するようにしています。汚染のある時は、部屋を誘導し対応し恥ずかしい思いをさせないなど気がけるようにしています。	職員は入居者の排泄時にはトイレの扉を閉め、介助が必要な場合には職員がトイレ内に入り扉を閉めて周りが見えないように配慮して行っている。入浴等の際に同性介助を希望する場合には臨機応変に対応している。ホーム全体で入居者の尊厳やプライバシーを守るよう努めている。	日中、居室内のポータブルトイレや尿器が通路から見える状態であった。本人の使い勝手や動線を考慮した上で、必要に応じて目隠し等の検討がなされることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から話せる方もいますが、そうでない方には職員のほうから思いを聞き出すよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出に関しては、なかなか対応できないところもあるが、ホームの中では起床の時間や、食事、入浴など個人のペースが違う時は、本人本位に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性で、洋服など職員が購入する事が多いが、気に入るものを購入してもらったりしている。また、アクセサリーや靴などもそうである。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の生活から嗜好を気につけ、出来るだけお好きなものを摂取して頂けるように心掛けています。テーブル拭きやお茶を袋に入れるお手伝いなど一緒に出来る方は積極的に行われている。	地元の旬の食材を用いてクリスマスや正月など、季節感が味わえる献立を立案している。入居者のアレルギーや嚥下状態を把握し、ミキサー、きざみ、とろみといった加工を加え、ミキサーの場合には元の形状に合わせて提供するなど、目でも楽しめるよう取り組んでいる。入居者もテーブル拭きを行うなど、食事を楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量も、個人差があるので体重測定や血液検査等で十分なのか確認している。水分を摂る量が少ない方には声掛けしたり、好きな飲み物を出しできるだけとってもらえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け準備を行い介助や声掛けの必要な人には、職員がついて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方には、排泄の時間を見て昼、夜、声掛けをしたり尿取りの確認をするようにしている。	職員は毎日「排泄表」に記録を残し、入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、失禁を未然に防ぐよう個別に対応している。入居前はオムツ使用であった方が、入居後の支援によってリハビリパンツで過ごせるよう改善するなど、排泄の自立に向けた支援にホーム全体で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なかなか排泄が難しい方には薬を使用したりしているが、基本的には、水分を摂ること、適度に体を動かすこと、食事は野菜を多く使うなど心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴は行きペースはある程度決めているが、その方に合わせたお湯加減やとり方をしている。	入浴は3日に1回のペースで行っている。入浴が困難な方には居室で清拭を行うなど、入居者の状態に応じて支援している。入居者の気分や体調に合わせて入浴日や時間を柔軟に変更し、対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度で、休みたい時は部屋に戻り休んでいただいている。空調も気持ち良く休んで頂けるよう管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に、薬の説明書とじていつでも見れるようにしており、頓服で出されるお薬は申し送りや薬箱に貼り把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行動を職員の都合で決めることをせず、ご本人にまかせるようにしている。体操、レクやドライブなどの声掛けは全員に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であまり行えていないのが現状だが、天候などとも相談し、事業所周りの散歩やドライブに行くよう心掛けた。	入居者一人ひとりの希望に沿って、ホーム近くへ散歩に出かけたり、ドライブに行き、住み慣れた自宅や、その方の家族宅の近くを眺めたり、家族と一緒に外食するなど、入居者の希望を把握し、家族や地域の方と協力し、戸外へ出かけられるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の方で管理しているのが現状だが、ご本人が望まれるものや必要なものは職員が代行で購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、その都度、対応している。手紙などは、本人と話し、職員が代筆することが多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁や居室の壁に季節感のあるものを飾ったりしている。幸い立地条件も良好で生活環境は良い。	共用空間に季節の花を飾ったり、プランターでトマトやさつまいも、ネギを育てるなど、入居者が季節を感じながら生活できるよう取り組んでいる。リビングの壁面には季節感あふれる壁画が多く飾られており、ホーム全体が明るい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中のテーブルに座る際の組み合わせは相性を考え配置している。1人になりたい時は、居室に戻りくつろいで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との話で、必要なものを最低限持って来られている。その方にあった環境作りに努めている。	居室は入居者一人ひとりの状態に応じて家具の配置を変更しており、介護の動線の確保に努めている。入居者の希望を聞き入れて、仏壇や位牌、マリア像、家族の写真を自室に飾るなど、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にカレンダーや時計を置き、日にちや時間の把握をしていただくようにしている方もいます。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度も「コロナ禍」の為、地域や小学校との行事にも参加できなかったが、例年は地域との交流を心掛け、地域に根差した事業所を目指しております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春の「父母の日の集い」夏の「納涼祭」秋の「敬老会」には地域の方や老人会の方にも参加して頂き交流を深めている。今年度もコロナ禍のため、敬老会のみ規模を小さくし、職員と入居者だけで行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、地域の方の訪問や行事参加は難しかったため、運営推進会議の中で指摘があり、それについて取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、「コロナ禍」のため、2か月1回、会議を4月、8月を文書で行い、6月、8月を対面会議で行った。今後もメンバーの意見の取り入れと2か月に1回の開催を続けていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の健康保険課の方が、運営推進会議に参加されているので情報をとりあえる。地域包括の方から問い合わせがあるので協力出来ることには対応させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、会議の中で内部研修を行っている。また、日頃から、職員同士で拘束にあたる？あたらぬ？の話を常に行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止委員会だけでなく、何らかの委員会に参加しており、内部研修だけでなく、日頃から職員同士で虐待にあたる？あたらぬ？の話を常に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、1名の方が採用された。職員へは、全体会などで紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護支援専門員、管理者が担当し、納得して頂けるよう様心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で御家族との面会が少ないため、電話等でのやりとりがほとんどである。申し送りなどで、情報は共有し、対応するようにしていますが、一部の御家族になってしまっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や面談等を通じて、日頃から職員の意見を聞き、できるだけ対応しようとしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、給料の見直しなどあり又、ホームでの取り組みの努力など理解し評価されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月行われており、外部研修の案内をホームに情報提供して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のつながりがあり、地域から他のツ事業所、施設とのつながりは深い。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時は、ご本人、御家族共に話す時間を取り電話での連絡をいつでもとれるようにし不安なくサービスの利用ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで困ったことや、これからの不安を傾聴し御家族との関係づくりに努めている。ご本人はもちろん、御家族の支援をすることも常々代表が言われている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況と、御家族の状況を判断しその時に必要なサービスを勧めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの中では、一部の方に洗濯物たたみやお茶の葉を袋に入れておくをお願いしているぐらいで、日々の介護に追われ最近では手伝いをしてもらうことが少ない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の状況によっては、外出、受診、外泊などの協力をいただいているが、今年度もコロナ禍のため、面会禁止か窓越しの面会になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住所が近くの方は、散歩やドライブなどつれていくことができるが、遠方の方は時間がなく難しい状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を把握した上でご利用者同士の支え合いができていますので、自然と関わりあいができています。時により、職員が間に入り円滑にいくよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	離島という地域の特性もあり、退所されてからも町であつたりすると挨拶や会話をし、関係性を継続できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意志が伝えられる方の希望や意向は、日々の会話から把握し、情報を共有するようにしている。失語症の方は、ご家族の方に相談したりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族や以前の担当の方からの聞き取りを行い、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほとんどの方が目が届くので、過ごし方、心身状態、状況が変わってきたのも把握できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、訪問看護の方々へ相談することもある。又、訪問看護は毎週来られるのでアドバイスを頂く機会も多い。日々のケアの中に反映していることもある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録が職員によっては書けるようになってきている。申し送りノートは情報共有に活用できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に合わせてくれる事は、他からの協力を得ながら対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員、ご家族での支援を行っている。本人が欲しいものを、職員が代行して買い物をしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の特性で病院は上五島病院のみだが、皆さま主治医が決まっており、適切な医療支援は行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の日に、聞きたいこと伝えたいことは職員間でその日出勤する職員に伝え、当日、伝えてもらっている。看護師さんも必要に応じ病院との連携をとっていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状況の判断を病院と連携しながら連携室の担当の方と連絡を取り合い、退院後の事まで検討し安心して入院治療が出来るようにしている。早期に退院出来る時は、すぐに対応するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族とは元気な時に話をするよう心掛けている。ホームで出来る事は説明しており、環境や医療の必要性に応じての移動の旨も伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師のサポートもあり、訓練は行えていないが、マニュアルを参考にしたりして対応は出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	今年度は、1回6月に立会を行った。12月も立会にて避難訓練を実施する予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理事長が、尊厳を大切に敬う気持ちで接する事を言われています。職員同志で気になる言動がある時は、注意するようにしています。汚染のある時は、部屋を誘導し対応し恥ずかしい思いをさせないなど気がけるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から話せる方もいますが、そうでない方には職員のほうから思いを聞き出すよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出に関しては、なかなか対応できないところもあるが、ホームの中では起床の時間や、食事、入浴など個人のペースが違う時は、本人本位に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性で、洋服など職員が購入する事が多いが、気に入るものを購入してもらったりしている。また、アクセサリーや靴などもそうである。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の生活から嗜好を気につけ、出来るだけお好きなものを摂取して頂けるように心掛けています。テーブル拭きやお茶を袋に入れるお手伝いなど一緒に出来る方は積極的に行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量も、個人差があるので体重測定や血液検査等で十分なのか確認している。水分を摂る量が少ない方には声掛けたり、好きな飲み物を出しできるだけとってもらえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け準備を行い介助や声掛けの必要な人には、職員がついて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方には、排泄の時間を見て昼、夜、声掛けをしたり尿取りの確認をするようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なかなか排泄が難しい方には薬を使用したりしているが、基本的には、水分を摂ること、適度に体を動かすこと、食事は野菜を多く使うなど心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴は行いペースはある程度決めているが、その方に合わせたお湯加減やとり方をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度で、休みたい時は部屋に戻り休んでいただいている。空調も気持ち良く休んで頂けるよう管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に、薬の説明書をとじていつでも見れるようにしており、頓服で出されるお薬は申し送りや薬箱に貼り把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行動を職員の都合で決めることをせず、ご本人にまかせるようにしている。体操、レクやドライブなどの声掛けは全員に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であまり行えていないのが現状だが、天候などとも相談し、事業所周りの散歩やドライブに行くよう心掛けた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の方で管理しているのが現状だが、ご本人が望まれるものや必要なものは職員が代行で購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、その都度、対応している。手紙などは、本人と話し、職員が代筆することが多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁や居室の壁に季節感のあるものを飾ったりしている。幸い立地条件も良好で生活環境は良い。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中のテーブルに座る際の組み合わせは相性を考え配置している。1人になりたい時は、居室に戻りくつろいで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との話で、必要なものを最低限持って来られている。その方にあった環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にカレンダーや時計を置き、日にちや時間の把握をしていただくようにしている方もいます。		